

会長講演

## 京都における病院の発展史

中橋 彌 光

病める人々をある一定の場所または館に集めて収容し、疾病の如何を問わず、とりあえず治療、介護を行うものを病院と定義するならば、その発祥は遠く紀元前に遡るものであるが、記録に残る時代となればわが国では奈良時代からのものが知られており、その多くは社寺を中心としたものであった。

くだって近代病院となると我が国ではやはり南蛮紅毛の医学、特にオランダ商館を通じて導入された西洋の医学の受容がなされた江戸中期以降に始まると言えよう。

これらの古い過去の事例については既に幾つかの考察がなされているので本講演では省略することとし、主として明治維新以後、ことに第一次世界大戦から第二次世界大戦、およびその後の日本、特に京都府における公私病院の形態の変遷にスポットを当てて若干の考察を試みたので報告させていただく。

(京都医学史研究会)